

H28 年度中期標準化戦略(案)

部門名	アーキテクチャー	担当専門委員会	3GPP 専門委員会	SWG 名	
活動名	3GPP、および GSMA-RCS 標準化に関する活動				
他標準化団体の動向	<p><u>現状</u></p> <p>3GPP では1年半～2年毎に定期的に仕様書リリースセットを発行しており、近年リリース 13 が 2015 年 12 月に凍結され、順次 TTC 仕様化作業も予定されている。リリース 13 の特徴としては様々な IoT 端末の収容、ネットワークの強靱化、更には Public safety 向けのミッションクリティカル通信の提供など多様化するサービスニーズを取り込む事などが挙げられ、例としては以下の様な新たな機能が追加された。</p> <ul style="list-style-type: none"> Cellular IoT: 低消費電力デバイス(例: 5Wh 電池、200 バイト通信/日で 11 年動作)を効率的に収容する技術。制御信号を極端に減らす事で端末のバッテリー消費を抑制する技術がキーとなっている。 FMSS: Flexible Mobile Service Steering SGI インターフェース上に加入者データなどの情報により DPI, Fire Wallなどを連続して動作させる機能。 MCPTT: Mission Critical Push to Talk, LTE アクセスを用いて緊急通信に用いる PTT 通信を提供する。ユーティリティ関連、鉄道関連などの商用利用もスコープとしている。 MONTE: Monitoring Enhancements, MTC デバイスの挙動をモニターする機能。MTC デバイスがカバレッジを逸脱した場合や NW から切断された場合などに MTC サーバに通知する。 <p>3GPP では 2015 年 3 月よりリリース 14 の仕様策定が行われており、2017 年 3 月に凍結予定である。更に並行してリリース 15 の仕様検討が 2016 年 6 月頃から開始されている。これには IMT-2020 無線方式への提案とそれに関連した次世代モバイルシステムの仕様化検討が含まれる。</p> <p><u>H27年度の活動方針</u></p> <p>■ 3GPP の標準化動向</p> <p>現在、リリース 14 として以下の様な機能のフィージビリティ、要求条件仕様等が検討されており、例として以下の様な機能の標準化動向を把握し国内標準化に寄与して行く。</p> <p>(Stage 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> Study on New Services and Markets Technology Enablers (FS_SMARTER) LTE support for V2X services (V2XLTE) Mission Critical Services Common Requirements (MCImp-MCCoRe) Study on 3GPP Enhancement for TV Video service (FS_EnTV) Study on Paging Policy Enhancements and Procedure Optimizations in LTE (FS_PPEPO_LTE) 				

	<p>(Stage 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Study on Architecture for Next Generation System (FS_NexGen) • FS on Control and User Plane Separation of EPC nodes (FS_CUPS) • Service Domain Centralization (FS_SeDOC) • Study on sponsored data connectivity improvements (FS-SDCI) • Feasibility study on the Support of Emergency services over WLAN (FS_SEW Ph2) • Study on S8 Home Routing Architecture for VoLTE (FS_V8) • Study on architecture enhancements for LTE support of V2X services (FS_V2XLTE-ARCH)
<p>日本における状況 (技術動向、市場動向、 標準化の必要性)</p>	<p>移動通信事業者では LTE/LTE-Advanced(4G)サービスが定着した。ITU-R での次世代移動通信方式(IMT-2020)の仕様策定スケジュールの承認を受け、ITU-TでのFG IMT-2020の活動、NGMN, 欧州 5GPPP、中国 IMT-2020 Promotion Group、韓国 5G Forum 等で Whitepaper, Position Paper が出されるなど、国際的に次世代移動通信システムの検討に向けた動きが活発となっている。日本においても、2020年東京オリンピックの開催を大きなマイルストーンとして、2014年9月に5GMFが設立され、次世代システムへの要求条件、ユースケースを示す白書の編纂、実証実験に向けた取り組みが鋭意進められている。次世代モバイルシステムの要求条件では、これまでのセルラー移動体サービスの更なる進化系である一般消費者向けの高速度・大容量サービスに加えて、ミッションクリティカル通信のための高信頼性・低遅延サービス、マシンタイプ通信のための膨大な回線数収容など、あらたな収益機会の創出が見込まれる。より広い業界を巻き込んだ戦略的標準化を推進する求心力の一つとして、これまでの実績とノウハウのある3GPPでの次世代システム標準化活動を支援していく。</p>
<p>TTCの標準化方針</p>	<p><u>他国内標準化組織との連携による移動通信標準化作業の活性化と促進</u> 移動通信市場の活性化に必要な仕様の標準化に向け、ARIB、CIAJなどの国内通信関連標準化組織との連携やTTC内関連専門委員会との連携を図り標準化活動を進めて行く。 <u>海外の関連標準化組織との連携</u> IEEE, BBF, OMA, GSMA、ITU-R/T等との連携に配慮する。 <u>平成28年度重点活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 3GPPで大きく進行中のワークアイテム概要を委員会メンバーで連携し把握及び取り纏めを実施。 • ワークアイテムや、技術動向、トレンドの全体的な意見交換を実施。 • 次世代移動通信システムに関する動向情報の発信。 • 上記の標準化アイテムの概要を取り纏め資料の活用や情報展開について本委員会で検討・推進する。

活動計画	H28	H29	H30 以降	ドキュメント区分	記事
●標準化活動	4回／年(6月, 9月, 12月, H29年3月)のTTC仕様書の制定を予定 ▼▼▼▼ 3GPP仕様書(Release 8～Release 13)を元にTTCとして必要な仕様書の制定	4回／年(6月, 9月, 12月, H30年3月)のTTC仕様書の制定を予定 ▼▼▼▼ 3GPP仕様書(Release 8～Release 13/14)を元にTTCとして必要な仕様書の制定	同左 ※TTC仕様制定の対象3GPP仕様はRelease 14/15	仕様書/ 技術レポート	
●調査活動	予定なし	予定なし	予定なし	なし	
●アップストリーム	予定なし	予定なし	予定なし	なし	

凡例: ▼ドキュメント制定(標準:J、仕様書:TS、技術レポート:TR、調査報告書:SR)